徳島新聞　第3種郵便物認可

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」第5日は5日、宇都宮市のユウケイ武道館などで11競技が行われ、徳島県勢は剣道、ラグビー、自転車の3競技に出場した。剣道の成年男子が29年ぶりに4強入り。3位決定戦で敗れたものの、県勢の団体競技で今大会初入賞を果たした。ラグビー女子は予選プールⅡ組を2位通過し、8チームトーナメントに進出。3大会連続の入に全5レースを終えたセーリングの奈良充規（富田製薬）・中野太教）組は11位だった。第6日の6れ、県勢は7競技に出場する。

いちご一会とちぎ国体2022　第5日

徳島 29年ぶり4強

成年男子3位決定戦・鹿児島対徳島　メンとコテを決めて1勝を挙げた徳島の大将玉田晋（右）＝宇都宮市のユウケイ武道館（岡野将大撮影）

光る粘り強さ 接戦制す

前日の2回戦を逆転で制した成年男子徳島がこの日も快進撃を見せ、3回戦、準々決勝を突破。県勢29年ぶりの4強入りを果たした。終盤までもつれ込む接戦をものにする粘り強さが光った。

難敵静岡との準々決勝は、中堅戦を終えて1勝1敗1分け。チームの命運を託された副将山室（県警）と大将玉田晋（徳島文理高教）の両ベテランがここから本領を発揮した。まず監督兼任の山室が得意のメンで2本勝ち。最高段位8段を持つ玉田晋もドウを立て続けに決め、貫禄の2本勝ちで締めくくった。

3回戦では3分け1敗と追い込まれた後、大将・玉田晋がメンを連取。チーム全体で1本上回り、本数勝ちを収めた。玉田晋は「勝つしかない状況だったので、絶対負けないという気持ちで積極的に攻めた」と振り返った。

警察官や教員らでチームを編成。新型コロナウイルスの影響で合同練習は数回しかできず、各自が個人練習を重ねてきた。最年長の57歳・玉田晋は各自が力を出し切れるよう緊張をほぐす心配りを怠らず、一体感を高めたチームは2、3回戦に競り勝った自信を、目標（8強）を上回る結果に結び付けた。

1993年の東四国国体以来となる4強入りで、天皇杯（男女総合）順位アップを目指す県チームに大きく貢献した。山室は「このチームでここまで来られてうれしい」と感慨深げ。玉田晋は「地道に努力を続けたら良い結果を出せるということを実践できた。自分たちの戦いぶりを通して徳島の剣道界が少しでも盛り上がれば」と語った。（富士佳輝）

栃木 4―1 徳島
○大平メコー　美馬
森園メーメ　日和田
○竹中メー　山室